

巻頭言

財団紀要10号、これまでとこれから

玉木 正男

健康文化振興財団が設立されてから5年を経過し、財団の事業として刊行される会誌「健康文化」もこのたびその第10号が発刊されることになった。

「健康文化」には、文字通り人間の健康と人間の作る文化に関連して、古今東西の、いや今からあとの未来をふくめて、種々の領域についていろいろの視点からの論説、勧告、随想が展開されていて、興味がつきない。

特に「健康」について言えば、初代財団理事長故林文子博士の専門とされた放射線医学が、疾病予防による健康維持と疾病の精密診断と治療に果たす役割を、医学書とは別の立場から解説した多くの文章が見られることが、この紀要の一つの特徴になっているといえよう。よく知られた内科、外科、あるいはわかりやすい眼科などに対して、いわば新興の専門分野であった放射線科がなしとげた目ざましい最近の進歩については、一般人にはもちろん医師にもよく知って欲しいことが少なくないように思うのは、筆者だけではあるまい。

次に「文化」については、あまりにも広大な分野がふくまれるのでテーマはつきないであろうが、筆者の一つの希望を無遠慮に申し述べるならば、絵画などの芸術あるいは文学についての文章もあって欲しいと思う。

「健康文化」が今後益々興味深くまた健康と文化に有意義なものになって行くことを待望して筆をおくことにする。

(財団理事・大阪市立大学名誉教授)